

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790800122		
法人名	社会福祉法人啓和会		
事業所名	グループホーム夢の森		
所在地	喜多方市熱塩加納町米岡字下平乙608-5		
自己評価作成日	令和3年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和4年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム夢の森は、「笑顔を絶やさず、その人らしい生活ができるように」という理念のもと、職員は利用者様一人一人に合わせた介護支援や関わり方に力を入れています。また地域との交流もあり、様々な行事に利用者様と参加し、地域と共に暮らせるGHを目指しています。施設が山々に面していることもあり、自然に囲まれているため、天気の良い日は日光浴を行って頂いています。食事面については、好みのものや季節の野菜、会津の郷土料理等を取り入れながら、喜んで頂けるよう工夫しています。

事業所・法人が認知症対応型共同生活介護の役割や、利用者一人ひとりの尊厳や地域で生活することの意味を理解し、その人にとって最善のケアをどのようにして実現するかを考えている。職員が積極的に意見を出し合い、連携して事業所のあり方を考え、管理者はそれらを受け止め開かれた、よりよい事業所運営を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年3月に事業所内で、理念について話し合い、見直しや変更を行っている。また朝のミーティングや職員会議の時に読み上げ、意識して取り組んでいる。	法人理念を基に、職員が実践できる事業所の理念について、職員で話し合い作成し、利用者の生活スタイルを意識した支援に取り組んでいる様子が見えた時に理念が活かされていると感じている。笑顔が絶えない生活を、家族との関係が継続できる支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の運動会に毎年参加していたが、新型コロナウイルスの影響により参加できなかったが、施設で作成した広報誌を地域の方に回覧して頂き、施設の様子を伝えると同時に、ご意見等も頂いている。	保育園、夏と冬に地元と中学生のボランティアの訪問、消防団の避難訓練参加、地域運動会の見学等で交流している。中学生の職場体験があり、掃除や歌や紙芝居を行って貰っている。事業所のそば会で近所の蕎麦屋さんが来所され、そばを提供して貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常2か月に1度認知症カフェを開催していたが、新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、施設での様子をお伝えし、意見や助言等を頂き、サービスの向上につなげている。	地域の運動会や事業所の避難訓練への消防団の参加、廃品回収への協力について、意見や要望を貰い、参加・協力している。会議を活性化するため、開催時期に合わせた資料(夏場の脱水症状や冬場の感染症対策等)が充実できるように勉強会を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と、日頃から委員介等に出席した際にコミュニケーションを図り、連携が取りやすいよう努めている。また施設の実情を知って頂き、相談等を行い施設の運営に活かしている。	市の担当者と、新型コロナウイルス感染症に関する対応方法等について相談し、アドバイスを受けている。地域のイベントや防災情報、市内の新型コロナ感染者の発生状況等について、ご連絡を貰っている。定期的に役所を訪問し、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何か事業所内で定期的に話し合い、勉強会を開催している。またマニュアルについてもその都度確認し職員が拘束にならないよう理解しながらケアを実践している。	利用者の尊厳と権利を尊重し、拘束の身体的・精神的弊害を理解し、拘束をしないケアに努めている。言葉の拘束について気づいたときは、職員同士で注意しあえるように日頃から話し合いをしている。法人及び事業所で定期的に身体拘束をしないケアの研修会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止について勉強会を開催している。また日頃から職員同士で話し合いながら虐待が起こらない環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では利用対象者はいないが、事業所内で勉強会を開催し、必要な方が利用できるよう体制を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は入所前に説明を行っているが、不明な点等についても丁寧に確認している。また契約後も、いつでも相談できる体制をつくり、不安なく利用できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に生活の中での困りごと等を伺い、ご家族へも手紙で状況報告を行い、電話等で意見を頂き運営に反映している。	意見や要望を出してもらえよう、こまめに連絡を取ることで、信頼関係を構築するようにしている。利用者が在宅時に行っていたことを、継続できるようにして欲しいとの要望に、事業所でも行えるように取り組んでいる。いただいた意見や要望は申し送り等で情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を開催し、全員で話し合える機会を設けている。また職員から提案があった時は、その都度話し合い運営に反映できるよう努めている。	家族会や事業所行事、業務改善の提案があり、実際に行い、運営に活かしている。資格取得や研修会への参加要望があったときは、勤務の調整を行い、できる限り参加できるようにしている。管理者が定期的に員と面談を行い、職員が安心して働けるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の職務状況を把握し、職場環境の改善や給与水準等について、意見を吸い上げ整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人一人の力量を把握し、法人内外での研修を受ける機会を確保している。また資格応援制度もあり、積極的に資格取得を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホーム管理者との意見交換や、毎月会議を通して情報交換を行っている。またグループホーム連絡会でも意見交換を行い、柔軟なサービス提供や質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の状態や生活歴等を把握し、職員間で話し合いケア方法を決めて、本人様に寄り添いながら、困っている事、不安な事に耳を傾け、気兼ねなく生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に、ご家族と話し合う機会を設け、不安な事や要望、思いを聞き取り、ケアに反映出来るよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態変化等があった場合は、本人様やご家族にとって何が必要かアセスメントを行い、意見等を頂きながらサービスの提供及び変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、人生の先輩である利用者様に様々な事を教えて頂いている。また本人様にできる限り自己決定を促しながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙にて日常の生活の様子を報告している。現在は新型コロナウイルスの影響で、面会や家族参加の行事は行えないが、定期的に電話にて相談しご意見を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族との写真を居室に飾り、大切な人との関係が途切れないように支援している。また友人や知人の方からの電話もあるため、関係が途切れないように支援している。	これまで、近所や知人の方に面会して貰い、その際に再訪をお願いし、関係継続が出来るように取り組んでいる。いつでも電話で話ができることを家族に伝え、家族から手紙があった時は、本人に渡し、返事を送る際は支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の生活状況を把握し、台所のお手伝い等、利用者様同士で楽しく会話できるよう努めている。また意思疎通が難しい方には、職員が関わりトラブルにつながらないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に困りごと等あれば相談できる旨を伝え、相談しやすい環境をつくっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴を把握し、一人一人の要望や以降を引き出しながら支援している。また、随時ご家族からも電話や来所時に聞き取りし情報を得ている。	家が心配なので見に行きたい、東京の姉と会いたい等の思いを、レクリエーションや夕食後の団らん時などに聞いている。家族に電話で家の様子等を聞いたり、東京の姉と電話で話し、喜んで貰っている。把握した思いや意向は、職員会議等で共有し、ケアに活かせるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人様の生活歴や生活環境を把握し、職員間で共有している。また定期的に状態の確認を行い、施設での生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を実施し、体調の変化を把握している。また心身の状態にも配慮し、声掛けや、1人1人の生活状況を把握し個別に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に利用者様の介護提供について、モニタリングを行い、本人様の意向や状態等について職員間で話し合い計画書に反映している。ご家族へは事前に要望等を伺い、意向を確認している。	本人や家族の希望や意向を伺い、その人の心身の状態を考慮しながら、できること、したいことを取り入れた計画を作成している。計画の変更は、利用者、家族、職員で情報を共有し、必要に応じて医療機関に相談し、意見を聞き、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子や介護記録等を参考にモニタリングを行い、アセスメントを行い、職員間で共有し、随時介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時々生まれるニーズに対し、ご家族と随時話し合い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り外出できる機会を設け、利用者様の要望に応じて、近隣の散歩や、室内での行事を企画して楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の希望や状態等について情報を共有し、かかりつけ医に相談や報告している。家族状況により支援が必要な方へは通院介助を事業所で対応している。その際の受診結果については、お電話やお便りを通じてお話している。	協力医療機関とは、定期的な受診や入院等について、協力体制ができており、利用者や職員の安心につながっている。受診は、ほぼ職員が対応し、受診前に、家族の意向や不安な点について聞き、受診時に伝えている。受診後は、家族に状況を連絡し、情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師は勤務していないが、日常の関わりの中で、身体の変化等がみられた時は、かかりつけ医に連絡し相談や指示を仰いでいる。急変時に関しては、既往歴や現病歴を把握し、常に緊急時の対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供を行い、状態や性格、認知症等について伝え、利用者様が安心して治療を受けられるよう努めている。またご家族の意向を確認し、医療機関の担当者と連絡を密に取り、できるだけ早期に退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の変化や加齢により重度化してきた場合は、その状況の変化ごとにご家族にお話し、意向確認を行っている。また医療機関とも連携し、状態の変化についても随時相談し、事業所でできることをご家族に提案し、説明しながら取り組んでいる。	重度化や終末期に入った時は、家族に再度希望を聞き、ケアに反映している。電話等で情報を共有し、面会に来て貰うなどしている。医師や看護師へ、様子や家族の思いなどを伝え、連携している。重度化や終末期について勉強会を開催し、不安な点も含めて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを職員全員で把握し、緊急時の対応について定期的に内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回災害を想定し避難訓練を行っている。その際に日中や夜間帯の避難訓練を行い、火災や地震、水害など様々な想定で訓練を行っている。	消防署や地域の消防団に訓練に立ち会って貰い、訓練後、消防署から消火器の設置位置、避難経路についてごアドバイスを貰っている。職員は年に一度以上訓練に参加できるよう、職員を順番で担当としたり訓練の日程や勤務を調整している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人1人の個性や価値観など全体的に把握し、声掛けや介助時等にプライバシーを損ねないように支援している。	利用者一人ひとりの尊厳を守るために、個人情報保護を保護し、プライバシーを侵害しないように注意すべきものと考え、研修会等を通して周知を図っている。人生の先輩であることを意識して、言葉使い等が馴れ馴れしくならないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その人の思いや何を望んでいるか希望を聞いたり、自己決定が難しい方は、今までの生活歴やご家族と相談し、最適な方法で声掛けし、決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれが出来ることを見極め、その方のペースで取り組む事ができるよう支援している。また利用者様本人の希望に沿って生活が送れるように、その都度声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みをお聞きし、季節に応じて声掛けを行い好みの洋服等で外出できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に食べたいメニューをお聞きし、献立を作成している。また旬の食べ物を提供し季節感を感じて頂けるよう支援している。	季節の物を取り入れること、利用者の食べやすさを心がけたり要望を取り入れ、職員がメニューを作成している。一人ひとりのペース食べられるよう、柔軟な対応をしている。食器拭きや簡単な調理等を手伝って貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様ごとに食べる量などを把握し、摂取して頂いている。また水分摂取量が少ない方には、こまめに声掛けしながら提供している。常食が難し方へはトロミや刻みにて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様ごとに出来るところについては見守り、支援が必要な場合は介助をにてお手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様1人1人の排泄パターンを把握し、身体状況に応じた支援を行っている。また介助する場合は、羞恥心への配慮も行っている。	できる限りトイレで排泄できるよう、布パンツ等を使用して生活できるよう取り組んでいる。利用者の排泄感覚を把握・誘導し、オムツからリハビリパンツに変更した方がいる。失敗しても、大丈夫と伝え、場所を移動するなど、周囲から分からないよう、交換介助行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の状態を把握し、水分摂取や適度な運動を取り入れている。また自然排便を促せるよう、食事に乳製品を取り入れている。排便状況も把握し便秘が続いている方がいる場合は、かかりつけ医に相談し下剤等を調整し体調管理に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者様に時間など希望を伺い、入浴して頂いている。また体調不良のため入浴が難しい場合は、足浴や清拭を行っている。	入浴を嫌がる人には、体調や気分を聞きながら、その都度声がけをしている。入浴剤を希望に合わせてたり、シャンプーは好みのものを使用して貰っている。衣類の着脱時には、人目に触れないよう、着脱の時間が短くなるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者様ごとのペースに合わせている。またできる限り日中帯活動的に過ごしていただき安眠につなげている。夜間眠れない時は、職員と会話をしたりテレビを観て過ごして頂き、落ち着いてから入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに薬の内容や副作用を把握し、理解に努めている。また状態が変化した際は、かかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様1人1人の生活歴を把握し、状態に合わせて声掛けを行い、食事作りや掃除、洗濯物干しなどお手伝いをして頂いている。敬老会やクリスマス会等の行事を取り入れ、利用者様に楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり苑外活動はできなかったが、近隣の散歩を行い、日光浴や気分転換につなげている。	希望があれば、職員と一緒に買い物に出かけている。行事で出かけるときは、事前に目的地の動線やトイレの場所等を確認し、出発前に利用者の体調確認を行っている。自宅やお墓参り、知人宅などに家族の協力のもと、出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は、預り金として施設で管理している。要望があれば、職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様ごとに声掛けを行い、いつでも電話できる体制をつくっている。また施設で年賀状を出し、親睦や交流ができ、関係が途切れないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファやこたつを配置し、和やかで家庭的な雰囲気と安心感のある場の提供に努めている。また壁面には利用者様の手作りの作品を展示し、季節感を取り入れた安らぎの場や環境づくりを心掛けている。	日常は共有空間で過ごされる方が多く、歩行や移動のため動線上に物を置かないようにして、安全に注意している。感染症対策で定期的な消毒のほか、1テーブルを2人で使用し、対面しないように座って貰っている。温度、湿度のチェックを定期的を確認している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設け、誰でも自由に歓談して頂いている。また畳スペースで利用者様動詞がゆったり寛ぎ交流が持てるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室は、できる限り馴染みのある物や写真・小物などを飾って頂き、居心地よく、安心した空間となるよう配慮している。利用者様が作成した作品も居室に飾り、季節感やその人らしい空間となるよう努めている。	一人ひとりの身体状況や希望に応じてベッド、タンスの位置を決めている。居室を間違わないよう、入り口に名前や目印をつけている。清掃は、利用者に確認しながら職員が行い、衣替えは、職員が家族に連絡し、衣類等を持ってきて貰い、整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸惑いがないように、各居室の入口に写真や絵を貼り、目印としている。また浴室やトイレ等は文字を見やすくすることで、自立した生活が送れるよう支援している。		